

第4回依存問題対策プロジェクトチーム	
開催	平成29年6月16日（金）午後1時～午後4時 PCSA会議室において
出席人数	メンバー4名、正会員オブザーバー1名、合計5名
討議事項	リーダー
	辻 良樹 株式会社ダイナム
	サブリーダー
	荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社
	メンバー
	望月 孝浩 株式会社ダイナム
	倉沢 隆志 株式会社ニラク
	福島 一実 夢コーポレーション株式会社
	若林 昇 株式会社キョウサン
	塩田 英紀 株式会社ヒカリシステム
	武内 好努 アメニティーズグループ (株式会社バンドラ)
小林 正俊 アメニティーズグループ (株式会社バンドラ)	
討議事項	1) 九州講習会について
	九州で開催された「安全パチンコ・パチスロアドバイザー講習会」の各社参加状況を報告。更に内容の詳細を情報共有した。また、今後の開催地における開催、申込み受付状況について情報を共有した。
	2) 依存に関するPCSA声明について
	声明案の内容に対して、対象者の明確化、娯楽や趣味の意味、約束や宣言のかなどについて検討した。その結果を次回理事会にPCSA声明草案として提出する。
	3) ギャンブル依存症対策基本法案
	与党案、民進党案それぞれについて講評し各自内容を確認した。
	4) 自己申告プログラムについて
	まず現状での導入店舗数が700店舗、登録人数が18名となっている。また、警察に当件について質問された際の対応方法、回答事例などの情報を共有した。各社の導入店舗数と今後の導入予定、現在の登録人数の報告がされた。
	5) 海外における特定複合観光施設に関する調査分析業務委託報告書
	東京都が海外のカジノ叙情を調査したレポートの内容を確認。アメリカ、シンガポール、韓国などそれぞれの年少者対策を確認し、その違いとメリットデメリットに対して意見を交わした。
	6) 記事「リハビリサポート・ネットワークは業界の危機を救えるのか？」
	記事対象のRSNIに絡めて、RSN電話相談の24時間対応などについて内容を確認した。現在、世論はパチンコ業界から離れているように見えるが、アドバイザー研修や自己申告プログラム導入は着実に進めるべきだと注意が促された。
	次回開催
平成29年7月29日（土）	
午前9時30分～12時	
PCSA会議室にて	